ラック サーバの管理

この章は次のトピックで構成されています。

- ラックマウント サーバの詳細の表示 （1 ページ）
- ラック マウント サーバの障害の詳細の表示 （4 ページ）
- ラックマウント サーバの電源オン/オフ （5 ページ）
- ラック マウント サーバのアセットのタグ付け （6 ページ）
- ラックマウント サーバのシャットダウン （7 ページ）
- ラックマウント サーバのハード リセットの実行 （8 ページ）
- ラックマウント サーバの電源再投入の実行 （8 ページ）
- ラックマウント サーバの KVM コンソールの起動 （9 ページ）
- ラックマウント サーバの GUI の起動 （10 ページ）
- ラックマウント サーバのロケータ LED の設定 （11 ページ）
- ラックマウント サーバのラベルの設定 （12 ページ）
- ラック マウント サーバのタグの管理 （13 ページ）
- ラック マウント サーバのタグの追加 （16 ページ）
- リモート サーバへのテクニカル サポート データのエクスポート （17 ページ）
- SEL のクリア （19 ページ）
- システム タスクの管理 （20 ページ）

ラックマウント サーバの詳細の表示

ラックマウント サーバの詳細（サーバで使用されているメモリ、CPU、PSU など）を表示する場合は、次の手順を実行します。

（注） [ラック グループ（Rack Groups）] を選択し、ラックマウント サーバの詳細を表示する手順を実行することもできます。

始める前に

サーバがラック アカウントとしてラック グループに追加されていることを確認します。

手順

ステップ 1 **[システム（Systems）] > [インベントリと障害のステータス（Inventory and Fault Status）]** を選択します。

ステップ 2 [ラック グループ（Rack Groups）] を展開し、サーバが含まれているラック グループを選択します。

ステップ 3 選択したラック グループのページで、[ラック サーバ（Rack Servers）] をクリックします。

ステップ 4 リストでサーバをダブルクリックしてその詳細を確認するか、リストでサーバを選択し、右端の下矢印をクリックして [詳細の表示（View Details）] を選択します。

（注） リストからサーバを選択するまでは、右端に下向き矢印は表示されません。

ラックマウント サーバに関する次の詳細が表示されます。

タブ	説明
要約	ラック アカウントの概要。
CPU	サーバで使用されている CPU の詳細。
メモリ	サーバで使用されているメモリの詳細。
PSUs	サーバで使用されている電源モジュールの詳細。 （注） Cisco UCS S3260 高密度ストレージ ラック サーバには適用されません。
PCIアダプタ	サーバで使用されている PCI アダプタの詳細。
VICアダプタ	サーバで使用されている VIC アダプタの詳細。 リストされている VIC アダプタのいずれかを選択して [詳細の表示（View Details）] をクリックすると、[外部イーサネット インターフェイス（External Ethernet Interfaces）] と [VM FEX（VM FEXs）] の情報が表示されます。
ネットワークアダプタ	サーバで使用されているネットワーク アダプタの詳細。 リストされているネットワーク アダプタのいずれかを選択して [詳細の表示（View Details）] をクリックすると、[外部イーサネット インターフェイス（External Ethernet Interfaces）] の情報が表示されます。

タブ	説明
ストレージアダプタ	サーバで使用されているストレージ アダプタの詳細。 リストされているストレージ アダプタのいずれかを選択して [詳細の表示（View Details）] をクリックすると、[コントローラ情報（Controller Info）]、[物理ドライブ（Physical Drives）]、[仮想ドライブ（Virtual Drives）] などの情報が表示されます。SSD のスマート情報の表示を参照してください。.
FlexFlashアダプタ	サーバで使用されている FlexFlash アダプタの詳細。 リストされている FlexFlash アダプタのいずれかを選択して [詳細の表示（View Details）] をクリックすると、[コントローラ情報（Controller Info）]、[物理ドライブ（Physical Drives）] などの情報が表示されます。 Cisco IMC Supervisor を旧バージョンからアップグレードしている場合、FlexFlash の詳細をレポートに表示するには [システム（Systems）] > [物理アカウント（Physical Accounts）] > [ラック アカウント（Rack Accounts）] > [インベントリ（Inventory）] に移動してインベントリを実行するか、定期的なインベントリが実行されるのを待つ必要があります。 （注） Cisco UCS S3260 高密度ストレージ ラック サーバには適用されません。
通信	HTTP、HTTPS、SSH、IPMI Over LAN、NTP、SNMP などのプロトコルに関する情報。
リモート プレゼンス	VKVM、Serial Over LAN、および vMedia の詳細。
障害	サーバで記録された障害の詳細。
ユーザ数	**デフォルト グループ**のユーザに関する詳細。ユーザ ポリシーおよびパスワードの有効期限ポリシーの作成時に設定した強力なパスワード ポリシーとパスワード有効期限の詳細も確認できます。ユーザ ポリシーおよびパスワードの有効期限ポリシーを参照してください。 （注） Cisco UCS S3260 高密度ストレージ ラック サーバには適用されません。
Cisco IMC ログ	サーバの Cisco IMC ログの詳細。 （注） Cisco UCS S3260 高密度ストレージ ラック サーバには適用されません。
システム イベント ログ	サーバ ログの詳細。 （注） Cisco UCS S3260 高密度ストレージ ラック サーバには適用されません。

タブ	説明
TPM	TPM インベントリに関する情報。
BIOS	サーバの BIOS 設定とブート順序の詳細。 サーバを選択し、[BIOS 設定の表示（View BIOS Settings）]、[ブート設定の表示（View Boot Settings）]、[ブート順序の表示（View Boot Order）]のいずれかをクリックします。
障害履歴	サーバで発生した障害の履歴情報。
テクニカル サポート	ファイル名、宛先タイプ、アップロードのステータスなどのテクニカル サポート ログ ファイルに関する詳細は、[テクニカル サポート（Tech Support）] テーブルに表示されます。 リモート サーバまたはローカルの Cisco IMC Supervisorアプライアンスへテクニカル サポート ログ ファイルをエクスポートするオプションがあります。エクスポートの詳細については、リモート サーバへのテクニカル サポート データのエクスポート （17 ページ）を参照してください。 （注） Cisco UCS S3260 高密度ストレージ ラック サーバには適用されません。
ホストイメージ	イメージの詳細（名前、サイズ、MD5チェックサム、最終変更時刻、イメージがマップされているかどうかなど）が表示されます。イメージを選択し、[イメージのマッピング（Map Image）]、[イメージのマップ解除（Unmap Image）]、または [イメージの削除（Delete Image）]を選択して、それぞれのアクションを実行できます。 （注） ホスト イメージ マッピングは、E シリーズ サーバにのみ適用できます。
関連付けられているハードウェア プロファイル	ハードウェア プロファイルに関連付けられているポリシーの詳細。

ステップ 5 右端の [戻る（Back）] ボタンをクリックして前のウィンドウに戻ります。

ラック マウント サーバの障害の詳細の表示

問題の原因や問題解決のための推奨手順など、ラック マウント サーバの障害の詳細を表示する場合は、次の手順を実行します。

始める前に

サーバはすでに、ラック アカウントとしてラック グループに追加されています。

手順

ステップ 1 **[システム（Systems）] > [インベントリと障害のステータス（Inventory and Fault Status）]** を選択します。

ステップ 2 [ラック グループ（Rack Groups）] ページで、[障害（Faults）] をクリックします。

ステップ 3 リストでサーバをダブルクリックし、詳細を表示します。リストでサーバをクリックし、右端の下矢印をクリックして [詳細の表示（View Details）] を選択することもできます。

（注） リストからサーバを選択するまでは、右端に下矢印は表示されません。

ラックマウント サーバに関する次の詳細が表示されます。

タブ	説明
説明	問題の原因の要約。
推奨	問題を解決する手順。

ステップ 4 [閉じる（Close）] をクリックします。

ラックマウント サーバの電源オン/オフ

ラックマウント サーバの電源をオンまたはオフにする場合は、次の手順を実行します。

始める前に

サーバはすでに、ラック アカウントとしてラック グループに追加されています。

手順

ステップ 1 **[システム（Systems）] > [インベントリと障害のステータス（Inventory and Fault Status）]** を選択します。

ステップ 2 [ラック グループ（Rack Groups）] を選択します。

（注） [ラック グループ（Rack Groups）] を展開し、サーバを含むラック グループを選択することもできます。

ステップ 3 選択したラック グループのページで、[ラック サーバ（Rack Servers）] をクリックします。

（注） また、[ラック グループ（Rack Groups）] でサブ グループを選択することもできます。

ステップ 4 サーバのリストから、電源をオンまたはオフにするサーバを選択します。

（注） 複数のラック サーバを選択することもできます。

ステップ 5 [電源オン（Power ON）] をクリックします。[その他の操作（More Actions）] ドロップダウンリストから [電源オフ（Power OFF）] を選択します。

（注） 右クリックしてオプションを選択することもできます。

ステップ 6 確認ダイアログボックスで、[OK] をクリックします。

（注） サーバの電源がオンまたはオフになったことを示すメッセージが表示されます。このメッセージは、いずれかのサーバの電源オン/オフを実行できなかったかどうかも示します。少し時間が経過した後でテーブルを更新すると、現在の電源状態が反映されます。

ラック マウント サーバのアセットのタグ付け

アセット タグは、サーバのユーザ定義タグです。[アセット タグ（Asset Tag）] オプションを使用し、Cisco IMC Supervisorで Cisco IMC サーバ プロパティを追加できます。

ラック サーバとシャーシの両方でアセットをタグ付けできます。シャーシのアセットにタグを付けるには、Cisco UCS S3260 ラック サーバのアセットのタグ付けを参照してください。アセットにタグを付けるには、次の手順を実行します。

始める前に

サーバはすでに、ラック アカウントとしてラック グループに追加されています。

手順

ステップ 1 **[システム（Systems）] > [インベントリと障害のステータス（Inventory and Fault Status）]** を選択します。

ステップ 2 [ラック グループ（Rack Groups）] ページで [ラック サーバ（Rack Servers）] をクリックします。

（注） また、[インベントリと障害のステータス（Inventory and Fault Status）] ペインの [ラック グループ（Rack Groups）] でサブ グループを選択することもできます。

ステップ 3 タグを付けるサーバを選択します。

ステップ 4 [その他の操作（More Actions）] ドロップダウンリストから [アセット タグ（Asset Tag）] を選択します。

（注） 右クリックしてオプションを選択することもできます。

ステップ 5 [送信（Submit）] をクリックします。

（注） [アセット タグ（Asset Tag）] オプションは、Cisco IMCリリース 3.0.(1c) 以降でのみ使用可能です。これよりも古いバージョンのプラットフォームでは、[ラック グループ（Rack Groups）] ページの [アセット タグ（Asset Tag）] カラムは空白になります。

ラックマウント サーバのシャットダウン

ラックマウント サーバをシャット ダウンする場合は、次の手順を実行します。

（注） 複数のラック サーバを選択することもできます。

始める前に

サーバはすでに、ラック アカウントとしてラック グループに追加されています。

手順

ステップ 1 **[システム（Systems）] > [インベントリと障害のステータス（Inventory and Fault Status）]** を選択します。

ステップ 2 [インベントリと障害のステータス（Inventory and Fault Status）] ペインで [ラック グループ（Rack Groups）] を選択します。

（注） [ラック グループ（Rack Groups）] を展開し、サーバを含むラック グループを選択することもできます。

ステップ 3 選択したラック グループのページで、[ラック サーバ（Rack Servers）] をクリックします。

（注） また、[ラック グループ（Rack Groups）] でサブ グループを選択することもできます。

ステップ 4 リストからサーバを選択します。

ステップ 5 [その他の操作（More Actions）] ドロップダウンリストから [シャットダウン（Shut Down）] を選択します。

（注） 右クリックしてオプションを選択することもできます。

ステップ 6 [OK] をクリックします。

ラックマウント サーバのハード リセットの実行

サーバをリセットするには、次の手順を実行します。

（注） 複数のラック サーバを選択することもできます。

始める前に

サーバはすでに、ラック アカウントとしてラック グループに追加されています。

手順

ステップ 1 **[システム（Systems）] > [インベントリと障害のステータス（Inventory and Fault Status）]** を選択します。

ステップ 2 [インベントリと障害のステータス（Inventory and Fault Status）] ペインで [ラック グループ（Rack Groups）] を選択します。

（注） [ラック グループ（Rack Groups）] を展開し、サーバを含むラック グループを選択することもできます。

ステップ 3 選択したラック グループのページで、[ラック サーバ（Rack Servers）] をクリックします。

（注） また、[ラック グループ（Rack Groups）] でサブ グループを選択することもできます。

ステップ 4 リストからサーバを選択します。

ステップ 5 [その他の操作（More Actions）] ドロップダウンリストから [ハード リセット（Hard Reset）] を選択します。

（注） 右クリックしてオプションを選択することもできます。

ステップ 6 [OK] をクリックします。

ラックマウント サーバの電源再投入の実行

ラック マウント サーバの電源を 1 サイクルでオンまたはオフにするには、次の手順を実行します。

（注） 複数のラック サーバを選択することもできます。

始める前に

サーバはすでに、ラック アカウントとしてラック グループに追加されています。

手順

ステップ 1 **[システム（Systems）] > [インベントリと障害のステータス（Inventory and Fault Status）]** を選択します。

ステップ 2 [インベントリと障害のステータス（Inventory and Fault Status）] ペインで [ラック グループ（Rack Groups）] を選択します。

（注） [ラック グループ（Rack Groups）] を展開し、サーバを含むラック グループを選択することもできます。

ステップ 3 選択したラック グループのページで、[ラック サーバ（Rack Servers）] をクリックします。

（注） また、[ラック グループ（Rack Groups）] でサブ グループを選択することもできます。

ステップ 4 リストからサーバを選択します。

ステップ 5 [その他の操作（More Actions）] ドロップダウンリストから [電源の再投入（Power Cycle）] を選択します。

（注） 右クリックしてオプションを選択することもできます。

ステップ 6 [OK] をクリックします。

ラックマウント サーバの KVM コンソールの起動

kvm.jnlp ファイルをダウンロードし、KVM コンソールを開くには、次の手順を実行します。

始める前に

- サーバがラック アカウントとしてラック グループに追加されていることを確認します。
- KVM 機能が機能するために必要な有効な Java Runtime Environment（JRE）がインストールされていることを確認します。

手順

ステップ 1 **[システム（Systems）] > [インベントリと障害のステータス（Inventory and Fault Status）]** を選択します。

ステップ 2 [インベントリと障害のステータス（Inventory and Fault Status）] ペインで [ラック グループ（Rack Groups）] を選択します。

（注） [ラック グループ（Rack Groups）] を展開し、サーバを含むラック グループを選択することもできます。

ステップ 3 選択したラック グループのページで、[ラック サーバ（Rack Servers）] をクリックします。

（注） また、[ラック グループ（Rack Groups）] でサブ グループを選択することもできます。

ステップ 4 リストからサーバを選択します。

ステップ 5 [その他の操作（More Actions）] ドロップダウンリストから [KVM コンソール（KVM Console）] を選択します。

（注）
- 右クリックしてオプションを選択することもできます。
- KVM コンソールを起動するサーバは最大 5 台まで選択できます。

ステップ 6 [送信（Submit）] をクリックします。

Cisco IMC Supervisor によって *kvm.jnlp* ファイルがダウンロードされます。

ステップ 7 ダウンロード フォルダ内の *kvm.jnlp* ファイルをダブルクリックします。

[KVMコンソール] が別ウィンドウで開きます。

（注） 別ウィンドウで開く `launcher.jsp` ファイルにより、選択したサーバのリストが表示されます。KVM コンソールが正常に起動したかどうかも確認できます。

ラックマウント サーバの GUI の起動

別のブラウザで Cisco IMC Supervisor GUI を起動するには、次の手順を実行します。

始める前に

サーバはすでに、ラック アカウントとしてラック グループに追加されています。

手順

ステップ 1 **[システム（Systems）] > [インベントリと障害のステータス（Inventory and Fault Status）]** を選択します。

ステップ 2 [インベントリと障害のステータス（Inventory and Fault Status）] ペインで [ラック グループ（Rack Groups）] を選択します。

（注） [ラック グループ（Rack Groups）] を展開し、サーバを含むラック グループを選択することもできます。

ステップ 3 選択したラック グループのページで、[ラック サーバ（Rack Servers）] をクリックします。

（注） また、[ラック グループ（Rack Groups）] でサブ グループを選択することもできます。

ステップ 4 リストからサーバを選択します。

ステップ 5 [その他の操作（More Actions）] ドロップダウンリストから [GUI の起動（Launch GUI）] を選択します。

（注） 右クリックしてオプションを選択することもできます。

ステップ 6 [送信（Submit）] をクリックします。

サーバの GUI が別のブラウザで起動します。

ラックマウント サーバのロケータ LED の設定

サーバ ロケータ LED を使用すると、データセンター内の多数のサーバ間で特定のサーバを識別できます。LED をオンまたはオフに設定するには、次の手順を実行します。

（注） 複数のラック サーバを選択することもできます。

始める前に

サーバはすでに、ラック アカウントとしてラック グループに追加されています。

手順

ステップ 1 **[システム（Systems）] > [インベントリと障害のステータス（Inventory and Fault Status）]** を選択します。

ステップ 2 [インベントリと障害のステータス（Inventory and Fault Status）] ペインで [ラック グループ（Rack Groups）] を選択します。

（注） [ラック グループ（Rack Groups）] を展開し、サーバを含むラック グループを選択することもできます。

ステップ 3 選択したラック グループのページで、[ラック サーバ（Rack Servers）] をクリックします。

（注） また、[ラック グループ（Rack Groups）] でサブ グループを選択することもできます。

ステップ 4 リストからサーバを選択します。

ステップ 5 [その他の操作（More Actions）] ドロップダウンリストから [ロケータ LED（Locator LED）] を選択します。

（注）　右クリックしてオプションを選択することもできます。

ステップ 6 [オン/オフ（Turn）] ドロップダウンリストから、[オン（ON）] または [オフ（OFF）] を選択します。

ステップ 7 [送信（Submit）] をクリックします。

ラックマウント サーバのラベルの設定

サーバにラベル名を設定すると、サーバの分類に役立ちます。これにより、必要なサーバの検索、確認、比較が容易になります。ラック マウント サーバにラベルを設定するには、次の手順を実行します。

始める前に

サーバはすでに、ラック アカウントとしてラック グループに追加されています。

手順

ステップ 1 **[システム（Systems）] > [インベントリと障害のステータス（Inventory and Fault Status）]** を選択します。

ステップ 2 [インベントリと障害のステータス（Inventory and Fault Status）] ペインで [ラック グループ（Rack Groups）] を選択します。

（注）　[ラック グループ（Rack Groups）] を展開し、サーバを含むラック グループを選択することもできます。

ステップ 3 選択したラック グループのページで、[ラック サーバ（Rack Servers）] をクリックします。

（注）　また、[ラック グループ（Rack Groups）] でサブ グループを選択することもできます。

ステップ 4 リストからサーバを選択します。

ステップ 5 [その他の操作（More Actions）] ドロップダウンリストから [ラベルの設定（Set Label）] を選択します。

（注）　右クリックしてオプションを選択することもできます。

ステップ 6 新しいラベルを入力します。

ステップ 7 [送信（Submit）] をクリックします。

ラック マウント サーバのタグの管理

タグは、オブジェクト（リソース グループ、ラック サーバなど）にラベルを割り当てる場合に使用されます。タグは、ラックの位置、担当サポート グループ、目的、またはオペレーティング システムなどの情報を提供するために使用できます。タグを追加または変更するには、次の手順を実行します。

始める前に

サーバはすでに、ラック アカウントとしてラック グループに追加されています。

手順

ステップ 1 **[システム（Systems）] > [インベントリと障害のステータス（Inventory and Fault Status）]** を選択します。

ステップ 2 [インベントリと障害のステータス（Inventory and Fault Status）] ペインで [ラック グループ（Rack Groups）] を展開し、サーバを含むラック グループを選択します。

ステップ 3 [ラック サーバ（Rack Servers）] または [シャーシ（Chassis）] をクリックします。

（注） [ラック グループ（Rack Groups）] ではサブ グループを選択できます。

ステップ 4 [その他のアクション（More Actions）] ドロップダウンリストから [タグの管理（Manage Tags）] を選択します。

（注） 右クリックしてオプションを選択することもできます。

ステップ 5 [+] をクリックして、[タグの管理（Manage Tags）] テーブルにエントリを追加します。

ステップ 6 [タグへのエントリの追加（Add Entry to Tag）] 画面で、次のフィールドに入力します。

フィールド	説明
タグ名	

フィールド	説明
	ドロップダウンリストからタグ名を選択して [送信（Submit）] をクリックするか、または新しいタグを作成します。 **1.** **[+]** アイコンをクリックします。 **2.** [タグの作成（Create Tag）] ウィンドウで、次の手順を実行します。 **1.** [名前（Name）] フィールドにタグのわかりやすい名前を入力します。 **2.** [説明（Description）] フィールドにタグの説明を入力します。 **3.** [タイプ（Type）] フィールドで、ドロップダウンリストから [文字列（String）] または [整数（Integer）] を選択します。 **4.** [使用できるタグ値（Possible Tag Values）] フィールドに、タグに使用できる値を入力します。 **5.** [次へ（Next）] をクリックします。 **6.** [+] アイコンをクリックして、新しいカテゴリを追加します。 **3.** [エンティティへのエントリの追加（Add Entry to Entities）] ウィンドウで、[カテゴリ（Category）] ドロップダウンリストからカテゴリを選択します。次のいずれかを指定できます。 • [Physical_Compute] カテゴリの場合、ラック サーバのタグ エンティティが作成されます。 • [管理（Administration）] カテゴリの場合、ユーザのタグ エンティティが作成されます。 （注） シャーシのタグも追加できます。シャーシのタグの追加の詳細については、Cisco UCS S3260 ラック サーバのタグの追加を参照してください。

フィールド	説明
	4. [ラック サーバ（Rack Servers）] または [シャーシ（Chassis）] チェックボックスをオンにします。 **5.** [送信（Submit）] をクリックします。 （注） タグは、セットになったタグ付け可能なエンティティに応じてそれぞれのカテゴリの下に表示されます。 **6.** 確認ダイアログボックスで、[OK] をクリックします。
タグ値	ドロップダウンリストからタグ値を選択します。

ステップ 7 [送信（Submit）] をクリックします。

ステップ 8 [タグの管理（Manage Tags）] 画面でタグを選択し、[編集（Edit）] をクリックしてタグを編集します。

ステップ 9 タグ名とタグ値を選択してタグを変更します。

ステップ 10 [送信（Submit）] をクリックします。

ラック マウント サーバのタグの追加

タグは、オブジェクト（リソース グループ、ラック サーバなど）にラベルを割り当てる場合に使用されます。タグは、ラックの位置、担当サポート グループ、目的、またはオペレーティング システムなどの情報を提供するために使用できます。ラック マウント サーバにタグを追加するには、次の手順を実行します。

始める前に

サーバはすでに、ラック アカウントとしてラック グループに追加されています。

（注） 複数のラック サーバを選択することもできます。

手順

ステップ 1 **[システム（Systems）] > [インベントリと障害のステータス（Inventory and Fault Status）]** を選択します。

ステップ 2 [インベントリと障害のステータス（Inventory and Fault Status）] ペインで [ラック グループ（Rack Groups）] を選択します。

（注） [ラック グループ（Rack Groups）] を展開し、サーバを含むラック グループを選択することもできます。

ステップ 3 選択したラック グループのページで、[ラック サーバ（Rack Servers）] をクリックします。

（注） また、[ラック グループ（Rack Groups）] でサブ グループを選択することもできます。

ステップ 4 [その他の操作（More Actions）] ドロップダウンリストから [タグの追加（Add Tags）] を選択します。

（注） 右クリックしてオプションを選択することもできます。

ステップ 5 ドロップダウンリストから [タグ名（Tag Name）] を選択します。

ステップ 6 ドロップダウンリストから [タグ値（Tag Value）] を選択します。

ステップ 7 プラス アイコンをクリックして新しいタグを作成します。タグの作成については、ラック マウント サーバのタグの管理 （13 ページ）を参照してください。

（注） タグの詳細を複製、編集、削除、および表示することもできます。

リモート サーバへのテクニカル サポート データのエクスポート

指定したサーバにテクニカル サポート ファイルをアップロードするには、次の手順を実行します。

（注） テクニカル サポートのエクスポート オプションでは、Cisco UCS S3260 高密度ストレージ ラック サーバはサポートされていません。

手順

ステップ 1 **[システム（Systems）] > [インベントリと障害のステータス（Inventory and Fault Status）]** を選択します。

ステップ 2 [インベントリと障害のステータス（Inventory and Fault Status）] ペインで [ラック グループ（Rack Groups）] を選択します。

（注） [ラック グループ（Rack Groups）] を展開し、サーバを含むラック グループを選択することもできます。

ステップ 3 選択したラック グループのページで、[ラック サーバ（Rack Servers）] をクリックします。

（注） また、[ラック グループ（Rack Groups）] でサブ グループを選択することもできます。

ステップ 4 リストでラックマウント サーバをダブルクリックしてその詳細を確認するか、リストでラックマウント サーバをクリックし、右端の下矢印をクリックして [詳細の表示（View Details）] を選択します。

ステップ 5 [テクニカル サポート（Tech Support）] をクリックします。

ステップ 6 [Create Tech Support] をクリックします。

ステップ 7 [テクニカル サポートの作成（Create Tech Support）] 画面で、次のフィールドに入力します。

名前	説明
[宛先タイプ（Destination Type）] ドロップダウンリスト	リモート サーバまたはローカルの Cisco IMC Supervisor アプライアンスにファイルをエクスポートできます。[REMOTE] または [LOCAL] を選択します。
[ネットワークタイプ（Network Type）] ドロップダウンリスト	ネットワーク タイプ。次のいずれかになります。 • **SCP** • **SFTP** • **FTP** • **TFTP**
[サーバ IP/ホスト名（Server IP/Hostname）] フィールド	サポート データ ファイルの保存先とするサーバの IP アドレスまたはホスト名。[ネットワーク タイプ（Network Type）] ドロップダウンリストの設定によって、このフィールドの名前が異なります。
[Path and Filename] フィールド	ファイルをリモート サーバにエクスポートする際に必要なパスおよびファイル名。
ユーザ名	システムがリモート サーバへのログインに使用する必要のあるユーザ名。ネットワーク タイプが TFTP の場合、このフィールドは適用されません。
パスワード	リモート サーバのユーザ名のパスワード。ネットワーク タイプが TFTP の場合、このフィールドは適用されません。

ステップ 8 [送信（Submit）] をクリックします。

（注）
- 選択してダウンロードできるテクニカル サポート ファイルは、[宛先タイプ（Destination Type）] として [LOCAL] を選択して作成されたものだけです。
- 既存のテクニカル サポート ファイルを選択し、Cisco IMC Supervisorアプライアンス内に保存されているファイルのみをダウンロードできます。特定のファイルを選択し、[ダウンロード（Download）] をクリックします。これにより、<ホスト名>_<タイムスタンプ>. tar.gz ファイルが作成されます。

SEL のクリア

システム イベント ログ（SEL）は、問題のトラブルシューティングに使用できるほとんどのサーバ関連イベントを記録します。SEL ログをクリアするには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 **[システム（Systems）] > [インベントリと障害のステータス（Inventory and Fault Status）]** を選択します。

ステップ 2 [インベントリと障害のステータス（Inventory and Fault Status）] ペインで [ラック グループ（Rack Groups）] を選択します。

（注） [ラック グループ（Rack Groups）] を展開し、サーバを含むラック グループを選択することもできます。

ステップ 3 選択したラック グループのページで、[ラック サーバ（Rack Servers）] をクリックします。

（注） また、[ラック グループ（Rack Groups）] でサブ グループを選択することもできます。

ステップ 4 リストでラックマウント サーバをダブルクリックしてその詳細を確認するか、リストでラックマウント サーバをクリックし、右端の下矢印をクリックして [詳細の表示（View Details）] を選択します。

ステップ 5 [システム イベント ログ（System Event Log）] をクリックします。

ステップ 6 [IMC SEL ログのクリア（Clear IMC SEL Logs）] をクリックします。

ステップ 7 （任意） [IMC SEL ログのクリア（Clear IMC SEL Logs）] ダイアログボックスで、[Cisco IMC Supervisor から履歴ログを削除する（Delete historical logs from Cisco IMC Supervisor）] チェックボックスをオンにします。

このオプションを選択すると、Cisco IMC SupervisorGUI からシステム イベント ログがクリアされます。

ステップ 8 [送信（Submit）] をクリックします。

システム タスクの管理

[システムのタスク（System Tasks）] タブには、現在 Cisco IMC Supervisor で利用可能なすべてのシステム タスクが表示されます。ただし、このシステム タスクのリストは、Cisco IMC Supervisorで作成したアカウントのタイプにリンクされています。たとえば、初めてログインした場合は、一連の汎用システム関連のタスクだけがこのページに表示されます。ラック アカウントや Cisco IMC Supervisor アカウントなどのアカウントを追加した時点から、これらのアカウントに関連するシステムのタスクがこのページに読み込まれます。

左側のペインでタスクを展開し、消去、ラック サーバ、ユーザ、グループ タスクなどの個々のタスクを選択して、それらを管理します。

アプライアンスで実行しているプロセスまたはタスクが複数ある状況において、システム タスクの無効化を選択することができます。無効にすると、手動で有効にするまで、システム タスクは実行されません。これは他のレポートに入力されるデータに影響します。たとえば、インベントリ収集のシステム タスクを無効にすると、このデータが必要なレポートに正確なデータが表示されない場合があります。この場合、インベントリ収集プロセスを手動で実行するか、またはシステム タスクを有効にする必要があります。

（注） システム タスクの編集は推奨されません。

手順

ステップ 1 **[管理（Administration）] > [システム（System）]** を選択します。

ステップ 2 [システムのタスク（System Tasks）] をクリックします。

ステップ 3 リストからタスクを選択し、[タスクの管理（Manage Task）] をクリックします。

ステップ 4 [タスクの管理（Manage Task）] 画面で、次のフィールドに入力します。

フィールド	説明
[タスクの実行（Task Execution）] ドロップダウンリスト	（オプション）[有効（Enable）] または [無効（Disable）] を選択します。
[システム タスク ポリシー（System Task Policy）] ドロップダウンリスト	次のいずれかのオプションを選択します。 • **default-system-task-policy** • **local-run-policy**

フィールド	説明
[スケジュールのタイプ（Schedule Type）] ドロップダウンリスト	システム タスクのスケジュール タイプを指定します。次のいずれかの頻度を指定できます。 • [固定遅延（Fixed Delay）] : 1 つのタスクの実行完了後、次のタスクの実行開始までの時間を指します。 • [固定レート（Fixed Rate）] : 連続的なタスクの実行と実行の間の時間を指します。1つのタスクの実行に遅延がある場合、またはスケジュール時間よりタスクの実行に時間がかかる場合は、後続のタスクの実行に遅れが出ます。この設定で設定されているシステム タスクは、同時に実行されません。これらのタスクは、同時には実行されません。
[時間（Hours）] ドロップダウンリスト	タスクを実行する間隔を時間単位で選択します。 [固定遅延（Fixed Delay）] をスケジュール タイプとして選択した場合、この数字は1つのタスクの実行を完了し、次のタスクの実行を開始するまでの時間間隔を示します（時間単位）。 [固定レート（Fixed Rate）] を選択した場合、この数字は連続したタスクの実行の時間間隔を示します（時間単位）。
[分（Minutes）] ドロップダウンリスト	分単位のタスク実行頻度を選択します。
[カスタム頻度の有効化（Enable Custom Frequenc）] チェックボックス	システム タスクのカスタム頻度を有効にするには、このチェックボックスをオンにします。
[繰り返しタイプ（Recurrence Type）] ドロップダウンリスト	システム タスクの定期スケジュールを指定します。次のいずれかを指定できます。 • **無期限** • **1回のみ**
[開始時間] フィールド	定期スケジュールの日付と時刻を特定します。

フィールド	説明
[頻度] ドロップダウンリスト	システム タスクの頻度を選択します。次のいずれかを指定できます。 • **Hourly** • **毎日** • **週 1 回** • **月 1 回** （注） このフィールドは、[繰り返しタイプ（Recurrence Type）] ドロップダウンリストから [無期限（No End）] を選択した場合にのみ表示されます。
[頻度の間隔] ドロップダウンリスト	ドロップダウンリストから頻度の間隔を選択します。このリスト内の値は、指定した頻度によって異なります。

ステップ 5 [送信（Submit）] をクリックします。

タスクの実行

各タスクは、ユーザが定義した間隔で実行するようにスケジュールされます。ただし、これを上書きして手動で実行することができます。手動で実行したタスクは、再度頻度カラムの定義に従って実行するようにスケジュールされます。システム タスクを手動で実行する場合は、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 **[管理（Administration）] > [システム（System）]** を選択します。
ステップ 2 [システムのタスク（System Tasks）] をクリックします。
ステップ 3 テーブルからシステム タスクを選択します。
ステップ 4 [今すぐ実行（Run Now）] をクリックします。
ステップ 5 [送信（Submit）] をクリックします。